

道路

青梅街道仲町付近の歩道整備

原 邦彦議員(公ク) 青梅街道の仲町付近の歩道整備計画について、都が当初の計画年度より前倒して進める方向だと聞くが、計画年度及び事業内容について示してほしい。

市長 当初、平成17年度から平成21年度までの計画であったが、継続的な改善要望の結果、見直しをすることになった。それにより、仲町交差点から天神町交差点までの区間で境界確定されている部分については、平成15年度より実施することである。整備内容等の詳細は交通管理者との協議が調ってから示されることになっている。

たかの街道の交通安全対策

桜田 誠議員(公ク) たかの街道を通る、国分寺駅北口から武蔵野美術大学までの西武バスが小型化について、要請する考えはないか。

府中街道から西の美大通りまでのたかの街道の歩道を、車いすや乳母車等が通れるように整備できないか。

市長 たかの街道は車道・歩道が狭く通行車両が多いため、安全対策の必要を認識しているが、道路の拡幅等は直ちに実施しにくい状況から、路線バスの小型化は方法の一つと考えており、今後西武バスに要請していきたい。

小平第十小学校の正門利用と駐車場

加藤俊彦議員(公ク) 小西側の正門を登下校時に利用できない理由は、保護者の声はどうか。学校の北側・西側に住む児童には不便だが、その数は、行事等での学校利用の際の保護者の車利用について他市の状況は、十小の状況は、駐車場の確保はどうか。また車の乗り入れに関する規定等はどうか。

校長 自動車は正門を利用するため、安全の確保から児童の利用は禁止している。保護者の問い合わせは一度あつた。北側・西側の児童は約40名である。学校行事では原則禁止。スポーツ大会では自衛を願うのが近隣市では一般的で、十小も同様である。駐車場は10台から15台ほどのスペースがある。乗り入れに関し、明文の規定はない。

空間のこと。池沼、湿地、草地等さまざまなタイプがある。

量で有効活用できないか。その他の方法で校長裁量の予算がつけられないか。

教育長 約2億8千万円で推移している。平成15年度から光熱水費予算の執行管理を各学校で行う計画で、これにより一層の節減が図れると考えている。予算はそれぞれ目的に応じて使途が定められていることなどから、困難と考えている。

校長が提出する事業計画書をもとに予算を組み立てること、校長の考える学校経営を支援していきたい。

小・中学校の自由選択制度導入

小林秀雄議員(フオ) 都内及び近隣市で小・中学校の自由選択制度の導入が進んでいるが、市は導入について、どう考えているか。

都内各市区市の進行状況はどうなっているか。

教育長 効果が明確に確認できることが前提と考えており、慎重に対応していきたい。

平成15年度から新しく実施する区市を含めると、14区3市で実施される見込みである。

一つの施策としてとらえられているものと考えている。

でも、別の物にできないか。

教育長 小学校では一般的にアルミ製の食器だが、ランチルームでは磁器食器を使用している。中学校ではメタリウム製の食器を使っている。

現在のところ順調に運営されており、おおむね好評であると理解している。

磁器食器に切りかえるためには、人員の増など、解決すべき課題が多く、市内全校で切りかえていくことは困難だが、小規模校等で工夫により可能と思われる学校を検討していきたい。汁わんについても同様に検討していきたい。

小・中学校における戦後史・現代史教育

関根 玲議員(フオ) 子どもたちが人権について、世界について考える上で、今の時代の日本が世界の中でどういった立場に置かれてきたのかを学ぶことは欠かせない。

現代史はどのように扱われているのか。カリキュラムは消化されているのか。消化できていないとすれば、その理由は、現代史に関する副読本などを独自につくれないか。

教育長 社会科の授業の中で学習指導要領に基づき、計画的に指導している。学年の終わりの時期に扱うことが多いが、時間の不足が生じることが傾向としてあつたが、国際社会に生きる日本人の育成という視点から、カリキュラムの未消化がないよう指導している。

市独自の副読本は、地域における教材としての位置づけで作成しているもので、現代史に關して作成する予定はない。

小児医療の充実

桜田 誠議員(公ク) 市内の小児医療の体制は、十分対応できる状況となっているか。

市小児医療の体制は、十分対応できる状況となっているか。

市小児医療の体制は、十分対応できる状況となっているか。

人間ドックへの一部補助を一般会計で行うと市の負担は

橋本久雄議員(緑ネ) 現在、人間ドックへの補助は、多摩26市中14市が国民健康保険事業特別会計の中で行っている。小平市が同様に行くと、年間5百万円の負担増になるとのことだが、この事業を一般会計の予防費で行うとどうなるのだろうか。

現行の基本健康診査のほかに、人間ドックを追加できないか。現行の基本健康診査と人間ドックの重複を解消すると、負担増はどのくらいになるのか。

市長 市民に不公平感が生じることも予想されることから、実施は慎重に検討していく必要があると考えている。

選択して受診する項目があるため、その受診状況により、負担額は変わってくる。

基本健診の拡充

西 克彦議員(共産) 基本健康診査での胸部レントゲンの実施を求めたいがどうか。実施した場合の試算は、1件当たりの市の負担はどのくらいか。

国民健康保険で人間ドックの実施を求めたが、市町村での実施も多数を占めてきている。来年の実施を求めたいがどうか。実施した場合の試算は、1件当たりの市の負担はどのくらいか。

市長 基本健康診査の集団健診時に、結核、肺がん検診として実施している。個別健診時に実施した場合は、1件当たりの検査単価を千。百円とする。3千万円の負担増が見込まれる。来年度実施は困難と考える。費用の2分の1を補助するとして、250人で試算すると、5百万円程度と見込まれる。

医療・健康

アスペルガー症候群への理解を深めよう

関根 玲議員(フオ) アスペルガー症候群は、日本では最近までほとんど知られていなかったため、誤解と偏見に悩む人は多い。市としてはどのような考えを持っているのか。

多くの人の理解を得るために、啓発活動を含め、市としてどのような取り組みが可能か。

市長 対人関係がうまく結ばれないなどのコミュニケーションの障害や、相互的な対人関係がとれないなどの社会性の問題があると理解している。

福祉関係者があらゆる研修の機会を通じて、理解を深めることが必要と考えている。

アスペルガー症候群とは

言語発達などが良好で、知的な障害が伴わない自閉症のこと。

夜間や休日の小児緊急医療の対応は、どのようにしているか。

市長 昼間の小児外来診療は専門の11診療所と2病院で対応し、平日午後7時半から10時半の準夜は、健康センターの平日準夜応急診療所で小児科と内科の応急診療を行っている。公立昭和病院とも連携を図り、小児医療体制を確保している。

夜間は比較的軽微な場合は平日準夜応急診療所に対応し、休日には輪番制で昼間2施設準夜1施設で小児科と内科の応急診療を行っている。また救急の指定医療機関への転送、紹介をし、万全を期している。

人間ドックの拡充

橋本久雄議員(緑ネ) 現在、人間ドックへの補助は、多摩26市中14市が国民健康保険事業特別会計の中で行っている。小平市が同様に行くと、年間5百万円の負担増になるとのことだが、この事業を一般会計の予防費で行うとどうなるのだろうか。

現行の基本健康診査のほかに、人間ドックを追加できないか。現行の基本健康診査と人間ドックの重複を解消すると、負担増はどのくらいになるのか。

市長 市民に不公平感が生じることも予想されることから、実施は慎重に検討していく必要があると考えている。

選択して受診する項目があるため、その受診状況により、負担額は変わってくる。

教育・文化

子どもたちの環境教育をもっと勧めたい

立花隆一議員(公ク) 小・中学校での環境教育の現状と、考え方はどうなっているか。

二小でのピオトープの取り組みの現状と評価は、今後、他の小学校へ広げる計画はあるか。

環境教育という視点で、地域・家庭との連携をどうとらえているか。

教育長 環境教育は環境と人間のかかわりについて理解を深めるなどのねらいがあり、生活科等で学習を行っている。

身近な環境を考える機会を与える意義ある取り組みとされており、7校でピオトープを活用

用した学習に取り組んでいる。

ピオトープづくりやよみかみ別の実践など連携は多くあり、すばらしいことと考えている。

ピオトープとは

多様な野生生物の生息可能な

校長裁量による教育活動予算の有効活用

永田政弘議員(政和) 小・中学校における光熱水費の推移と、考え方は

光熱水費の節約分を校長裁

自由選択制度導入

小林秀雄議員(フオ) 都内及び近隣市で小・中学校の自由選択制度の導入が進んでいるが、市は導入について、どう考えているか。

都内各市区市の進行状況はどうなっているか。

教育長 効果が明確に確認できることが前提と考えており、慎重に対応していきたい。

平成15年度から新しく実施する区市を含めると、14区3市で実施される見込みである。

一つの施策としてとらえられているものと考えている。

ビジネス支援図書館

永田政弘議員(政和) 今回実施したビジネス支援図書館セミナーの趣旨と実現性に対する認識、将来の考えは

インターネットと図書の使用分けはどう考えるか。

ビジネス支援専門の司書に対する考え方は。

ビジネス支援コーナーを設置できないか。

小平市教育情報ネットワーク

図書館ホームページの利用状況は。

教育長 情報提供機能充実のための対策として、ビジネス支援について研究・検討していくために開催された、研究課題として参考にした。

バランスよく提供していきたいと考えている。

当面は都のビジネス支援ライブラリーの案内をしていく。

スペース的に難しい。

インターネット等で図書館情報の提供に努めている。

1万1千2百25人のアクセスがあつた。

中小業者の営業と暮らしと健康を守る

渡辺今朝夫議員(共産) 今日中小業者の置かれている環境は大変厳しく、日常的な自己の健康管理もできない状況にある。

実際の把握について、現状はどうか。

把握した現状の分析は、実態調査に必要な市の独自の体制と、関係団体との協力関係はどうか。

今後の展望はどうか。

市長 統計資料で動向を把握

農業者への推進策等

宮崎照夫議員(政和) 生産緑地の見解は税務署と異なると聞くが、指導等があるのか。農家への指導はどのようになっているか。

学童農園の現状と今後、市民農園等の取り組みの考えは、拡大等について提案していく。

農業協会の生産販売コーナーの運営状況は、増設の考えは。

相統税等が農家の悩みのたが、国・都への働きかけの現状は、市長 特に指導はない。農家へは農業委員が指導している。

現在小学校5校で実施しており、増設を予定している。市民農園は研究していく。

運営は順調と聞いている。増設については調整していく。相統税納税制度の適用拡大等について提案していく。

一般質問

環境教育は環境と人間のかかわりについて理解を深めるなどのねらいがあり、生活科等で学習を行っている。

身近な環境を考える機会を与える意義ある取り組みとされており、7校でピオトープを活用



あっ！いるいる！（二小ピオトープ）